

基本方針について

方針1 「知りたい」が見つかる図書館

目標①「もっと知りたい」を提供します

「読んでみたい」と思う資料を充実させ、新たな本との出会いや発見を提供することで、知的好奇心を刺激し、市民の「もっと知りたい」につなげます。

目標②「知りたい」をサポートします

「困ったら図書館へ」という機運を高め、日常生活や仕事の中での「なぜ？」や「どうしよう？」に対して、それぞれが求める情報や解決方法を探すサポートを行います。

目標③「常滑市を知りたい」に応えます

継続的に「地域のことが分かる」資料を収集し、積極的に公開することで、過去と現在の常滑市についての理解を深め、未来に繋いでいきます。

方針2 「行きたい」場所となる図書館

目標① 今日「行きたい」場所に選ばれます

親子または一人で、読書でまたは勉強でと、図書館に行く理由や目的は様々ですが、行きたい場所（目的地）・過ごしたい場所（居場所）として「選ばれる」図書館を目指します。

目標②「いつも行く」のには理由があります

図書館は、幅広い世代に利用され、それぞれが求める環境は異なりますが、それぞれにとっての「お気に入りの場所」となるような、居心地の良い空間を提供します。

目標③「気軽に行ける」場所とします

本を借りる目的以外の人でも、気軽に立ち寄れる図書館とすることで、本との出会いや人との交流が生まれるきっかけを作ります。

方針3 子供の「読みたい」を育てる図書館

目標①「読みたい」気持ちを育みます

子供たちが本と出会い、読む楽しみを知り、自ら「本を選びたい」「一緒に読みたい」と思えるよう、家庭や地域と連携して「本が好き」という気持ちを育てます。

目標②「読みたい」が続く応援をします

保育園等で過ごす時間が長くなっても「本が好き」という気持ちが続くように、読み聞かせをする大人たちや、身近にある園文庫が、子供たちの「読みたい」を後押しします。

目標③「読みたい」の再発見に協力します

子供たちが学校生活の中で「本が好き」「本を読みたい」という気持ちを再発見できるよう、学校側から「頼りにされる」公立図書館を目指し、協力を行っていきます。

方針4 誰もが「使いたい」図書館

目標① DXで「使いやすい」を叶えます

「時間がない」「手続きが煩わしい」といった理由で図書館利用や読書から遠ざかってしまうことがないように、ICT技術の進展に柔軟に対応することで利便性を改善していきます。

目標② 「使いにくい」を改善します

年齢や国籍、障がいの有無、入院や施設への入居、働き方などその他の事情や個性といった多様な読書のかたちに対応したサービスを提供します。

目標③ 「使ってみよう」を発信します

SNSの双方向性を活かした情報発信を企画するなど、図書館を「よく知らない」人たちが「使ってみよう」と行動に移すきっかけとなるようなプロモーション活動を行います。

方針5 「始めたい」が広がる図書館 (※変更あり)

目標① 「始めたい」をサポートします

地域における課題の解決やまちづくりに関連した活動など、何かを「始めたい」と思った時に、必要な資料や情報、活動の場所を提供することで、その活動を支え、後押しします。

目標② 「始めたい」仲間を増やします

開館後も図書館を「考えたい」「応援したい」と思う声がもっと大きくなるように、計画段階から、図書館市民ワークショップのような新しい仲間が参加できるプロセスを企画します。

目標③ 「読書を始める」きっかけに出会えます

思いがけない場所での本との出会いが「読書を始める」きっかけへと繋がるように、施設や店舗、イベント、学校などへ、図書館が積極的に出向いていきます。